■平成２８年８月３１日（水）総務警察委員会県内調査

１　奈良県警察本部第２庁舎（奈良市柏木町１１９－２）

【調査目的】機動隊の潜水訓練・レンジャー訓練、交通機動隊の白バイ訓練、交通管制センターについて

【概　　要】

（１）警察本部第２庁舎について

機動隊（隊長以下３０名体制）、交通機動隊、自動車警ら隊、自動捜索隊の執行隊と交通管制センターの職員が勤務し、災害、事件に備え日々厳しい訓練を行っている。

（２）機動隊の訓練について

① 潜水訓練

・潜水訓練棟は、地上２階地下１階、プールの深さは最深部で５ｍと３ｍの２段階。
・訓練は、遺体が沈んでいる想定で、収容する様子を見学。ダム湖など濁った場所を想定し、目隠しして行う場合もある。
・本年は行方不明など３回捜索に行っているが潜水までには至っておらず、年によっては被疑者の証拠品捜索の支援要請がある時もある。
・県警機動隊は県内のみの活動であるが、管区機動隊は県外も活動の対象となる。

② レンジャー訓練

・訓練塔の高さは１１ｍ（最高部１３．５ｍ）。
・２種類の降下訓練（「後ろ向き」と「前向き」降下）を見学。
・レンジャーは自衛隊が進んでおり、年に１，２回、２名程度が自衛隊で訓練している。

③ 装備品

防爆処理関係（爆発物処理対応）、ＢＣ（バイオロジカル、ケミカル）対応関係（微生物及び化学兵器対応）、対銃器関係（拳銃所持被疑者に立ち向かうための装備）、災害関係の装備品及び車両（指揮官車、レスキュー車等）についての説明を受けた。なお、質問は、訓練等の見学の説明を受けた際に、個々に行われた。

（３）交通機動隊の白バイ訓練について

・二輪車（白バイ）は、1300cc12台、オフロード用800cc10台の計22台が執行車として配備。

・隊員は、白バイに乗るために１００日間の訓練を受けている。その訓練状況の一部、並列走行訓練、旋回訓練、執行車両による訓練、運行前点検等の様子を見学した。

（４）交通管制センターについて

県民に道路をスムーズに走行してもらえるよう、所長以下５名の勤務体制で、最新の大型コンピュータを使用し、管制業務を行っている。主要なものは以下の３つである。

① 大型コンピュータの運用並びに信号機の運用管理業務（約2,060の交差点に設置）及び、日本道路交通情報センターを通じて、１日に７回、県内の渋滞状況を見ながらラジオ（ＫＢＳ京都、アルファステーション、ならドットエフエム）で生放送。

② 広域管制業務。
熊本地震のような大規模災害で、奈良県の主要道路が止まってしまった場合、奈良県の道路事情を全国に周知。

③ 交通管制センターに交通道路情報が集まっているので、渋滞をなくすよう信号機の操作業務が非常に大事。大型コンピュータがあるとはいえ、３５台のカメラを用いながら、目で見て監視し、操作も行っている。先日の台風のような大きな事象が発生すれば、手動で、通行止め等の情報を発信しなければならないため、２４時間体制で実施。

２　奥大和移住定住交流センター「engawa」（橿原市常盤町６０５－５）

【調査目的】南部・東部地域への移住推進について

【概　　要】

（１）奥大和移住定住交流センター「engawa」について

「engawa」は、本年４月にオープンした施設で、地方と都会、若者と大人、移住者と奥大和地域など、場所と人をつなぐ移住相談のワンストップ窓口としての役割を担っており、移住

希望者に対しては、生活情報、移住支援情報、就業情報、空き家情報など、奥大和地域市町村やNPO法人空き家コンシェルジュと連携し、様々な情報提供やサポートを行っている。

（２）南部・東部地域への移住推進について

ⅰ 奥大和地域

・１９市町村で地域が分かれており（東部地域：１市３村、中南和地域：１市１町１村、南部地域：１市３町８村）、それぞれ市町村に担当者がいる。

・エリア別に協議会をつくり、ジャーナルの編集・作成や様々なイベントを一緒に実施。市町村間で競争してもらうように、情報共有するため、エリア毎、実施するイベント別に集まり交流を深めている。

ⅱ 移住の進め方等

・移住は最終ゴールで、まずは知ってもらう必要がある。認知を広げない限り移住は増えない。認知を拡げれば拡げるほど、移住の可能性は高まる。一度に移住はなかなかなく、普通は、知ってもらって関心を持ってもらい、来てもらって、リピートして、それ以後、大分狭まるが、そこから移住が始まる。

・旅行雑誌などでプロモーションし、紹介をしている。デジタルパンフレット化し、楽天の旅行サイトなどで見ることができる。

・天川村洞川でえんがわ音楽祭（9/25メインコンサート）、吉野町で空き家バンクサミット（12/21）、モニターツアーなどの開催を予定している。モニターツアーは、去年の実績では８名参加し、内７名が移住に結びついた。関心のある人が多く、移住の確率が高い。また、移住セッションを、２ヶ月に１回、大阪のブックカフェで開催しているが、毎回満員となる状況である（定員２０名）。

・本年１月に１ヶ月、渋谷のカフェを借りて、紀伊半島３県（奈良県、三重県、和歌山県）の食材を使ったメニュー展開をしたところ、最終日のイベントでは２００人くらい来ていただき、超満員であった。机上に簡単な告知をストーリー展開するだけでも効果があった。

ⅲ 拠点施設について

市町村	施設名	取り組み内容
山 添 村	かすがが一でん	旧春日保育園舎を利用し、地方と都会を結ぶコミュニティスペース。月１回の農業体験イベントなどを開催。今では３０人以上が集まるようになっており、完全に自立運営している。
下 市 町	下市木工舎 市ichi	「吉野杉で世界に通用する魅力的な家具を」と、旧水道事業所の建物をリノベーションした家具工房。若い研修生（無給・定員５人の公募に５０人が応募）が師匠の下で共同生活しながら技を磨いている。
十津川村	大森の郷（さと）	十津川村武蔵小学校の旧教員住宅をリノベーションし、１棟貸しの宿泊施設にしたが、今すごく人気がある。
東吉野村	OFFICE CAMP	小学校の校長の居宅だった建物をリノベーションし、シェアオフィスとして開業。デザイナー、カメラマン、ライターなど、クリエーターが多い。昨年１年間で１，５００人位の来場があり、１４人が移住。

３　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館（橿原市畝傍町５０－２）

【調査目的】県内の最新の発掘調査の成果について

【概　　要】

（１）橿原考古学研究所附属博物館について

橿原考古学研究所が１９３８年以来行ってきた発掘調査の出土資料を中心に展示。

展示は、発掘調査で出土した実物資料が中心で、常設展「大和の考古学」は日本考古学の基準資料をもとに「目でみる日本の歴史」になっている。

春秋２回の特別展は、学芸部門の研究成果や社会のニーズにあった企画、夏は県内の発掘調査の速報展として「大和を掘る」を毎年開催。

（２）展示内容の説明

ⅰ　特別展（特別展示室）

特別陳列「モンゴル草原７世紀の極彩色壁画　オラーン・ヘレム墓」、速報展として「大和を掘る３４－２０１５年度発掘調査速報展」ついて、展示内容の説明を受けた。

ⅱ　常設展示（第１展示室、第２展示室、第３展示室）

第１展示室では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代

第２展示室では、古墳時代

第３展示室では、飛鳥・奈良時代、平安～室町時代

の展示内容の説明を受けた。

なお、質問については、展示内容の説明を受けた際に、個々に行われた。